

観光大国の未来を担う、山岳地帯の建築家たち。



サフィエン木材工場 |
Forstwerkhof Safien

ロベルト・アルベルティン&アレクサンダー・ゾアンニ
Robert Albertin & Alexander Zoanni

シンプルな構造ながらも、主張の強いデザインが映える。地元サフィエン谷の木材を使って造られ、V字を連ねたシャープな外装には、スプルースと呼ばれるトウヒの若木材を使用。林業は、この地の経済を維持し人々の職を確保する上で欠かせない産業だ。



プロテスタント教会 |
Evangelisches Kirchgemeindezentrum
ハンスヨルグ・ルツヒ
Hans-Jörg Ruch

グラウビュンデン州のメソルチナやカランカなどに住む人々を中心とした、プロテスタントの教会で、すべての方角の空を見渡せる。コンクリートで造られた正方形の建物の中央には7m角の塔が立ち、礼拝堂となっている。内部の祭壇座は黄銅製で、金色に輝く。



ザンクト・ガレン個人邸 |
Einfamilienhaus in St. Gallen
マーカス・アルダー
Markus Alder Architekten GmbH

東スイスに位置するザンクト・ガレンの山腹に建ち、四方のコーナーにはめ込まれたガラス窓からは各方角に美しい景色を望む。がっしりしたコンクリート壁は床や屋根を繋げる役割を果たしながら、簡素かつ洗練されたニュアンスを生み出している。



トバリ山小屋 |
Berghütte Topali
フィリップ・メイヤー
Meier & associés architectes

スイスのアルピニスト・クラブが運営する山小屋のひとつ。コンクリートの土台にのせられた、ブリキ製のコンテナを思わせる外観が斬新だ。息を呑むような場所に建つが、景観を邪魔しないよう考慮され、まるで岩のように周囲の環境に溶け込んでいる。

に削って積み、この建物を造り上げた。正確さと簡潔さ、メッセージ性の強さが彼の作品の特徴だが、そうした独特の雰囲気や地理的条件と調和する姿こそ、山岳建築の醍醐味だろう。

もうひとり、ティチーノ州に本拠地を置くマリオ・ボッタも、この国を代表する建築家だ。彼は幾何学的なフォルム、光と影を利用したスタイルを得意とするが、そうした装飾性を山岳建築において意識したのが、「チュッゲン・ベルグオアーゼ」というスバである。船の帆をイメージした9つの天井群。三角形を繋ぎ合わせて構成された円柱が内部空間を区切り、花崗岩で描かれたメアンダー模様も印象的だ。

教会から展望台まで、個性あふれる建築の数々。

ツントー、ボッタのような巨匠だけではない。若手や、国外ではあまり知られていない建築家たちもまた、アルプスと向き合い、教会から個人宅まで多彩なジャンルにおいてクリエイティブティを発揮している。なかでも、サンモリッツに暮らすハンスヨルグ・ルツヒは、現代的な表現で注目を集める存在だ。「プロテスタント教会」は、真四角の箱の中からガラスを通して、すべての方角の空がよく見えるという造り。山の小さな教会という土着的なジャンルにおいて、こうしたモダンな解釈が与えられたのは興味深い。

標高3000m級の山岳地に挑戦する建築家も珍しくない。ゲロルド・フ